

学校教育目標	すべての子どもが楽しい学校 みらいを創る子 豊かなかかわりを通して、夢や希望をもち、自分の力で進んでいく子を育てます。(公)(開)(体) のびる 高める子 いろいろなことに興味をもち試行錯誤を繰り返して探求する子を育てます。(知) わかちあい 認め合える子 多様な考えを受け入れながら、仲間と感動を素直にわかち合える子を育てます。(徳)				
	創立 7 周年	学校長 村越 直之	副校長 水野靖志 吉澤千春	2 学期制	一般学級: 38 個別支援学級: 10
学校概要	児童生徒数: 1302 人 主な関係校: 日吉台中学校 日吉台小学校 日吉南小学校 矢上小学校 北綱島小学校 綱島東小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	日吉台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組

中期取組目標	教職員の協働性と特別支援教育の実践力を高め、全ての児童が楽しい学校生活を送れるようにする。業務の見直しを図り、働きやすい職場を目指す。保護者、地域から信頼される学校を目指す。 ・学ぶ楽しさやわかる喜びを実感し、主体的、対話的で深い学びが日々実践できるように、研究や研修を充実する。 ・特別支援教育の視点と組織で対応する児童指導体制を見直し、児童一人ひとりが安心して学校生活を送れるようにする。 ・保護者、地域、関係機関と連携を積極的に図り、協働して子どもを育てる風土を築く。 ・学習活動・行事・学び方などで「選択」の可能性を広げ、スケールメリットを生かした教育課程を構築していく。 ・既存に囚われず業務の見直し、効率化・ペーパーレス化を図り、働きやすい、働きがいのある職場を目指す。
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①授業を通しての人間関係づくりを大切に、子どもが自分で学びをつくりあげる子をを目指す視点を大切に授業実践を行い、授業を安心して自分を表現できる場にしていく。②ルールやモラルの指導を確実に行ったうえで、ICTを活用した学習の推進をはかる。③年間を通して児童の変容を看取り、個々の深い学びの実現に向けた改善を行っていく。
担当	研究研修部・情報視聴覚部	
徳	豊かな心	①YPアセスメントを年2回位置づけ、校内研修で効果的な活用について研究していく。アセスメントを根拠にした指導プログラムの実践と研究を行い、児童の居心地感を高めていけるようにする。 ②縦割り活動の異学年交流をより充実させていく。中休み遊びなど繰り返し行うことでより互いを身近な存在と感じられるようにし、自他のよさに気づき思いやりや自己肯定感を高めていけるようにする。教師が子どものやる気を引き出し、高学年がリーダーとなれるよう指導・支援していく。
担当	人権児童指導・道徳・特活	
体	健やかな体	①児童数増加や校舎増築で、校庭遊びの制限が予想されるため、安全な遊び方の指導と共に体を動かす機会を確保する。ロング昼休み、光の庭、空の庭、アリーナの活用。 ②学校保健委員会を児童が自主的に運営する。
担当	健康安全部・体育部	
公開	未来を開く志	①今までに広げた地域や関係機関との関わりを受け継いだりさらに広げたりして、子どもの思いを大切にした生活科・総合的な学習の時間等の単元開発を推し進める。②持続可能なまちづくりに児童が主体的に関われるようにするとともに企業や外国の学校、ボランティア団体と関わるなどし、グローバルな視野が広がるようにする。③「Green Expo 2027」を活用し、SDGsを考える単元開発を行い、自然と共生できる社会の実現について自分の考えをもてる子どもを育成する。
担当	研究研修部	
いじめへの対応		①いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、小さな案件も見逃さないよう、積極的認知し、未然防止に努める。②学校独自の心のアンケートを毎月実施し、児童理解に努める。
担当	人権児童指導部	
人材育成・組織運営(働き方)		①すべての教職員(初任者除く)が人材育成担当であることの自覚を高める。②複数主任をおき、一人で抱え込まない体制づくりに努める。学年担任制から得た知見を生かし、チーム学年制を取り入れ、より機動的に担任同士が助け合える組織をつくる。③人事評価制を適切に活用し、目標の共有と日々の観察、面談をとって育成を図る。
担当	教務部	
特別支援教育		①個別の教育支援計画・指導計画を作成し、丁寧な支援を行っていく。定期的に職員間での情報交換を行っていく。②「ホッとスルーム」「みのわトライ」「マイクラの会」など誰一人取り残さない特別支援教室の体制を全職員で整えていく。③学力の不足が自己肯定の低下につながる児童に関して積極的に個別学習を行っていく。
担当	人権児童部・特別支援教室推進	
児童指導		①全職員でスタンダードについて検討し、スタンダードの文言が少なくなっていくようにスリム化とともに児童への定着を図る。また保護者への周知も工夫して聞く。②関係機関との連携強化を図り、個に寄り添った支援を継続していく。YP・子供面談の活用。③専任を中心として効果的にSC,SSWを活用していく。
担当	人権児童部	
地域連携		①年間のボランティア内容を提示して、保護者が参加しやすい体制を整えるなどの工夫をし、引き続き、学校地域コーディネーターを中心に、保護者地域と共に歩む学校づくりを推し進める。②まち懇・スクールゾーン協議会などの地域との会合で出てきた意見を校内に反映させていく。③各町内会とのコミュニケーションを大切にする。学校から地域にお願いすることが多くなるが、何でも言える関係づくりに努める。「地域で学ぶ、地域を学ぶ、地域から学ぶ」を実現し、地域を愛する子どもたちを育てる。
担当	教務部	
a15		b10
担当		